

<今月の紙面>

- ・穀物の期末在庫量前年比2.1%増 (2面)
- ・TPP関連Q&A集作成 農水省 (3面)
- ・春の農作業安全確認運動開始 (4面)
- ・トラクタ 浅層暗渠施工器マニュアル作成 (5面)
- ・農研機構 (6面)
- ・泌乳前期 稲WC S主体TMR給与 (7面)
- ・農場拝見 福岡県宮若市・森下牧場 (8面)
- ・畜産物需給見通し

開拓情報

発行所

公益社団法人全国開拓振興協会

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13

TEL 03-3586-5843

FAX 03-3586-5846

ホームページ <http://www.kaitakusya.or.jp>

全日本開拓者連盟・全開連・全国開拓振興協会共同編集



開拓組織と農水省との意見交換会の様子

出席したのは、開拓組織から連盟の15道員会員組織代表に、全開連・全国開拓振興協会の役職員ら33名。農水省からは生産局畜産部より畜産企画課の前間聴課長補佐、佐藤英行係長、福留憲浩係長、畜産振興課の菅谷公平課長補佐、牛乳乳製品課の金長補佐、佐藤英行尚家畜防疫専門官、畜産安全管理課の橋本亮課長補佐の9名。

15年度補正予算・16年度予算概算、16年度の畜産政策価格および農畜産物政策価格による関連度畜産・酪農政策に関する要請を踏まえ、同省各課から所管事業の説明が行われた。

が決定前に提出した「16

年度畜産・酪農政策に関する要請」を踏まえ、同省各課から所管事業の説明が行われた。

の内容を説明。各事業の理解と有効的な活用を求めるため、活発な質疑応答が行われた。開拓組織代表者は、担当官に現場の実情を説明し、関連対策の強化・拡充を要望した。

17年度以降の予算要求を見据えての意見交換も行われた。生産基盤対策では、交雑種雌牛の繁殖利用(和牛受精卵移植)

岩手県滝沢市鶴飼の花「岩手花平農協」が発足した。

同じ建物に事務所を構えていた両農協は、事務合長(寺田旭代表理事組合長)は3月1日合併し、室を合体し、業務をスタートした。

消費者代表の委員から定特別対策事業(牛マルキン)の生産者積立金への支援、経営安定対策では、肉用牛肥育経営支援のあり方や性別別精液の活用に質問・意見が先づる決定。連盟が決定前に提出した「16

年度畜産・酪農政策に関する要請」を踏まえ、同省各課から所管事業の説明が行われた。

岩手県滝沢市鶴飼の花「岩手花平農協」が発足した。

4名で、業務課と総務課に2名ずつ配置された。

総組合員数は酪農家、畜産農家を中心とした57となつた。

「岩手花平農協・岩手畜協が合併」

花平酪農協・岩手畜協が合併

岩手県滝沢市鶴飼の花「岩手花平農協」が発足した。

同じ建物に事務所を構えていた両農協は、事務合長(寺田旭代表理事組合長)は3月1日合併し、室を合体し、業務をスタートした。

消費者代表の委員から定特別対策事業(牛マルキン)の生産者積立金への支援、経営安定対策では、肉用牛肥育経営支援のあり方や性別別精液の活用に質問・意見が先づる決定。連盟が決定前に提出した「16

年度畜産・酪農政策に関する要請」を踏まえ、同省各課から所管事業の説明が行われた。

岩手県滝沢市鶴飼の花「岩手花平農協」が発足した。

4名で、業務課と総務課に2名ずつ配置された。

総組合員数は酪農家、畜産農家を中心とした57となつた。

岩手県滝沢市鶴飼の花「岩手花平農協」が発足した。

4名で、業務課と総務課に

穀物の期末在庫量前年比1.0%増

米農務省 15/16年度需給見通し

(現地時間)、15/16年度の世界および主要国の穀物・大豆に関する需給見通しを発表した。世界の穀物全体および大豆の期末在庫量を前月に比べ下方修正したもの、前年度に比べ、それぞれ2・1%、2・2%増加すると予測している。世界の穀物全体および大豆の生産量は消費量を上回ると見込んでいる。

穀物の主品目および大量を上回り、期末在庫率を下回る見込み。世界全体の生産量は消費量を上回ることなどから、中国などで減少するものの、EUで飼料用需要が増加することなどから、中国などで増加するもの、EU(欧州連合)、米国、ウクライナなどで減少するところから、世界全体では史上最高の前年度を下回る見込み。消費量は中國などで増加するもの、インドなどでは史上最高となる見込み。消費量は、イングランドで減少するものの、ウクライナ、中国などで増加することから、世界全体では史上最高となる見込み。

取組面積が大幅増見込み

環境保全型農業直接支払い

農水省はこのほど、環境保全に効果の高い営農活動に取り組む農業者を支援する「環境保全型農業直接支払交付金」の15年度取組状況(見込み)を公表した。同交付金による直接支援は取組から5年目。取組面積が大幅に前年度を上回ると見込まれている。

公表された取組状況は、16年1月末時点で取りまとめられたもの。取組市町村数は872市町村(前年度比93・7%)。

取組面積を支払対象取組別にみると、すべての取組で増加が見込まれてきる。特に「地域特認取組」や「堆肥の施用」の取組が大幅に増加すると見込まれている(表1)。

取組件数は4097件、取組面積は7万6863ha(同133・1%)の取組が拡大しており、特見込み。なお、取組件数の増減は、15年度より交付金の対象を農業者個人に限定して支援の対象を拡大している。特見込み。

同交付金は、化学肥料用を原則5割以上低減する取組とあわせて行う、また農業者の組織する団体等に変更したため比較はない。

表1 支援対象取組別の取組面積

	2015年度		2014年度		増減(率)
	取組面積(ha)	シェア	取組面積(ha)	シェア	
カバーコロップ	13,612	18%	11,849	21%	1,763ha(114.9%)
堆肥の施用	17,483	23%	12,392	21%	5,091ha(141.1%)
有機農業	13,541	18%	13,263	23%	278ha(102.1%)
地域特認取組	32,226	42%	20,240	35%	11,986ha(159.2%)
計	76,863	100%	57,744	100%	19,119ha(133.1%)

表2 作物区別の取組面積

	2015年度		2014年度		増減(率)
	取組面積(ha)	シェア	取組面積(ha)	シェア	
水稻	55,790	73%	40,081	69%	15,709ha(139.2%)
麦・豆類	7,707	10%	6,186	11%	1,521ha(124.6%)
いも・野菜類	6,484	8%	4,908	8%	1,576ha(132.1%)
果樹・茶	1,691	2%	1,357	2%	334ha(124.6%)
花き・その他	5,191	7%	5,212	9%	△21ha(-99.6%)
計	76,863	100%	57,744	100%	19,119ha(133.1%)

世界の穀物・大豆需給見通し (米農務省3月9日)			
	とうもろこし	小麦	大豆
生産量	9億6964万t(4.0%減)	7億3232万t(0.9%増)	3億2021万t(0.5%増)
消費量	9億6778万t(1.2%減)	7億937万t(0.6%増)	3億1575万t(5.5%増)
期末在庫量	2億697万t(0.9%増)	2億3759万t(10.7%増)	7887万t(2.2%増)
期末在庫率	21.4%(0.4ポイント増)	33.5%(3.0ポイント増)	25.0%(0.8ポイント減)
前月からの主な変更点	生産量は、南アフリカで下方修正	生産量は、インドなどで下方修正	大きな変更なし

()内は対前年度比

大豆 生産量は、アルゼンチンなどで減少するものの、ブラジルで収穫面積が増加し、史上最高が見込まれることながら、世界全体では史上最高となる見込み。消費量は、中国、アルゼンチンなどで増加することから、史

上最高となる見込み。世

界全体の生産量は消費量を上回るもの、期末在庫率は前年度より低下す

ると予測している。

なお、年度のとり方は

品目・地域によって異な

り、主産国の中米では、

9月、小麦は6~5月となつて

り、年度のとり方は

上最高となる見込み。世

界全体の生産量は消費量を上回るもの、期末在庫率は前年度より低下す

ると予測している。

なお、年度のとり方は

上最高となる見込み。世

TPP関連Q&A集作成

キヤラバン説明会踏まえて

農水省

農水省は2月16日、農政新時代キヤラバン説明会の質疑応答を整理し、Q&A集としてホームページに掲載した。同キヤラバンは、農林水産分野のTPP対策などを生産者・関係者に丁寧に説明するため、各プロック・都道府県で開催。Q&A集は、TPPの影響や対策に関する(総論編)と、品目別の体質強化策などの(各論編)の二部構成で、キャラバンでの81の質問・回答を取り上げてある。総論編から四つを紹介する(一部割愛)。

Q 日本農業や消費者にとって、何がTPPのメリットなのですか

1 農林水産業について、牛肉・水産物、コカナダ、チリ、ニュージー

メ、日本酒、茶、青果物、ランドそれぞれの間など我が国の農林水産物で、②協定発効から7年経過後に、または一方の品目のすべてで関税が撤廃されたことから、TPP参加国への輸出拡大など、攻めの農林水産業への転換が促されること期待されます。

2 また、消費者の方々にとって、海外の農林水産物がより安く手に入れるという効果があると考えます。

Q TPPの合意文書に発効から7年後の再協議条項が含まれていますが、どう対応するのですか

1 TPP協定には、再協議に関する規定があり、①日本と米国、豪州、カナダ、チリ、ニュージー

2 これは、①協議が済わなければ約束内容の変更は必要ないこと②全品目が対象なので守ります。

Q TPP交渉は、全体の分野を通じたバランスを配慮したギリギリのものであり、協定発効後も、これら措置をとることが引き続き認められております。

Q 「政策大綱」では、攻めの農林水産業への転

1 富士市富士開拓の株式会社下牧場・松下寛氏が「酪農への道」と題し、就農までの経緯や取り組みを発表した。現在、従事者は4人であるが、酪農は意外と儲かる、酪農は毎日仕事があるが時間が自分で作られる」と思い、Uターン就農。飼料を一から見直し、農業を「酪農は、自分の努力次第で多くの可能性を秘めた職業」といっても意識し、実践していることを紹介した。

2 荒木氏が最優秀賞を受賞した。熊本県錦町のゼンカイミート株で第6回開拓ながさき畜産共進会を開催した。

3 開拓ながさき農協は2月25日、ゼンカイミート牛「北乃大福」が受賞した。出品牛全体では、平均25・7ヶ月齢、平均

4 ロース面積70cm、バラ厚8・8・9cm、BMS No.7、種雄牛「北茂安93」No.9、種雄牛「北茂安93」

5 19~21日 全開連定期監査(西日本支所、ゼンカイミート株)

6 17日 九州開拓連絡協議会(福岡)

7 24日 千葉酪農協通常総会(千葉)

8 15日 栃木県開拓農協通常総会(栃木)

9 18日 篠根酪農協通常総会(長崎)

10 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

11 19~21日 全開連定期監査(西日本支所、ゼンカイミート株)

12 17日 九州開拓連絡協議会(福岡)

13 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

14 19~21日 全開連定期監査(西日本支所、ゼンカイミート株)

15 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

16 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

17 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

18 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

19 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

20 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

21 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

22 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

23 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

24 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

25 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

26 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

27 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

28 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

29 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

30 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

31 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

32 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

33 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

34 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

35 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

36 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

37 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

38 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

39 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

40 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

41 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

42 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

43 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

44 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

45 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

46 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

47 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

48 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

49 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

50 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

51 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

52 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

53 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

54 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

55 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

56 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

57 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

58 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

59 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

60 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

61 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

62 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

63 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

64 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

65 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

66 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

67 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

68 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

69 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

70 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

71 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

72 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

73 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

74 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

75 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

76 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

77 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

78 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

79 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

80 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

81 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

82 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

83 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

84 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

85 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

86 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

87 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

88 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

89 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

90 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

91 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

92 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

93 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

94 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

95 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

96 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

97 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

98 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

99 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

100 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

101 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

102 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

103 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

104 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

105 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

106 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

107 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

108 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

109 24日 全國開拓振興協会監事監査・監事会(東京)

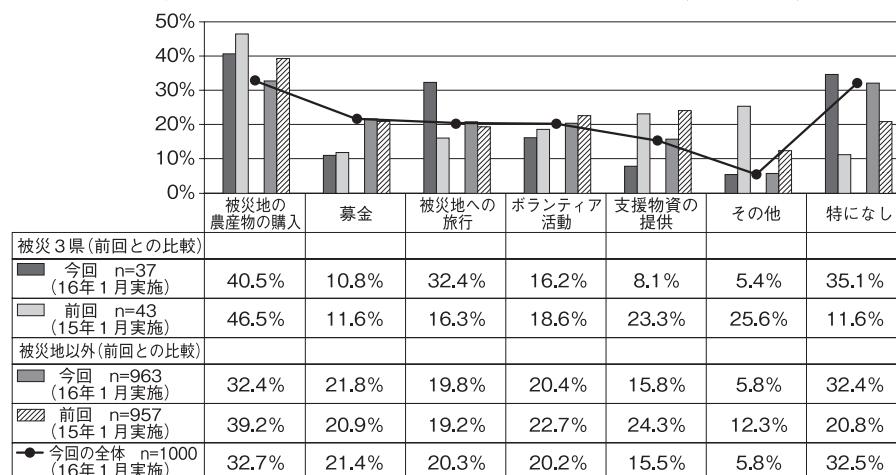
春の農作業安全確認運動開始

意識向上で事故防止図る

被災地産購入が支援に大事8割

J A全中 東日本大震災に関する意識調査

図 震災復興に対して不足していると思う支援(複数回答)



農水省は、毎年約40件発生している農作業死亡事故を減少させるため、3月から5月までを農作業安全対策の重点期間として、「16年春の農作業安全確認運動」を実施している。

16年は重点テーマとして「一人一人の安全意識の向上で事故防止」を設定し、運動の浸透・充実を図る。全国の生産者団体など関係機関の協力を図り、研修会、戸別訪問

など農業者に直接会う機会を利用して、農業者の安全意識の向上を図る。取組内容は、①多様な視点及び方法による農作業事故対策の推進②事故情報の収集と事故分析の強化③「十(プラス)安全」の取組④農作業安全優良事例の発信の強化⑤農作業安全ポスター・デザインコンテストの開催⑥啓発資料による注意喚起⑦電気さくにおける安全対策の徹底の7点。

これまで以上の事故情報の収集が不可欠であるため、地方公共団体はもとより、農業機械メーカー、農業機械販売店等からの対策を強化するには、こ

れまで以上の事故情報の収集が不可欠であるため、地方公共団体はもとより、農業機械メーカー、農業機械販売店等からの原因を究明し、事故防止

推進等を行う。

②では、農作業事故の原因を究明し、事故防止

対策を強化するには、こ

れまで以上の事故情報の

収集が不可欠であるた

め、地方公共団体はもと

より、農業機械メーカー、農業機械販売店等からの

対策を強化するには、こ

れまで以上の事故情報の

農研機構東北農業研究センター トラクタ浅層暗渠施工器マニュアル作成 シンプルな構造で製作費安

近年、水田を畠として麦、大豆や野菜などを栽培するところが増えてきているが、水田の排水機能が不十分な場合は品質低下や減収となる。多くの農家は水田に本暗渠(地下管水路)を施工しているが、その施工や改修は大がかりであり、農家自身が機械を使って手軽に施工する手段はほとんどなかった。

農研機構東北農業研究センターは、排水が不十分な水田や水田転換畠で、農家が所有するトラクタを使用して、簡便に暗渠施工ができる「浅層暗渠施工器」を開発し、同施工器を製作するためのマニュアルを作成した。

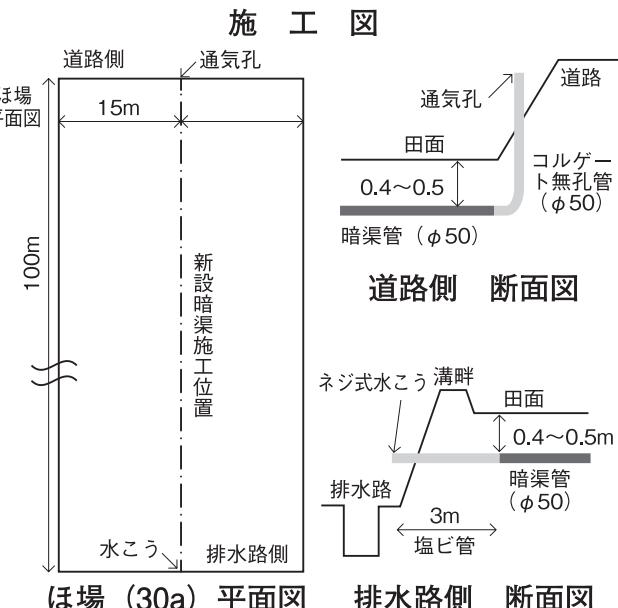
浅層暗渠施工器の特徴は、①農家所有のトラクタ(85ps以上のセミクローラ型)により施工できる②農家の営農作業において、水田の掘削から暗渠管の敷設、疎水材(もみ殻)投入までを

一連作業として実施できる③同施工器本体はシンプルな構造であり、地域の鉄工所などで安価(80万円程度)で製作できる④小規模区画の水田でも手軽に施工できる。

必要な資材は、①暗渠吸水管: コルゲート有孔管φ50mm(管の表面に1mm程度の幅のスリット入り。φ50mmでは1巻100mで市販されている)②ネジ式水こう又は水平水こう③通気孔部・水こう取り付け部: コルゲート無孔管又は塩ビ管およびエルボ④継ぎ手類: コルゲート・塩ビソケット、

コルゲート管ソケット等⑤もみ殻(疎水材): 25~30体/100m(市販のもみ殻用ポリ袋)。

暗渠の施工は、①小型バックホーで暗渠上下流端(水こう部、通気孔部)を掘削する②暗渠施工位置を弾丸暗渠などで破碎し、同施工器にかかる牽引抵抗を低減させる。水こう(排水口)部分は塩ビ管又はコルゲート無孔管を設置する③暗渠管敷設後の修正ができないので、同施工器による開削のみを行い、暗渠管が埋設される深さを事前に確認



する④暗渠管の敷設と疎水材の投入を行う。この手法では暗渠管は水平に敷設される⑤水こう部、通気孔部を埋め戻す。水こう部は水漏れによって畦畔が崩れる恐れがあるので、十分に締め固めて埋め戻す⑥掘削した位置をトラクタで踏圧する。

同マニュアルが必要な場合は、同センター情報広報課に問い合わせを。同センターのホームページからもダウンロードできる。

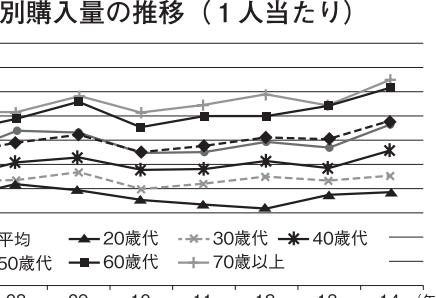
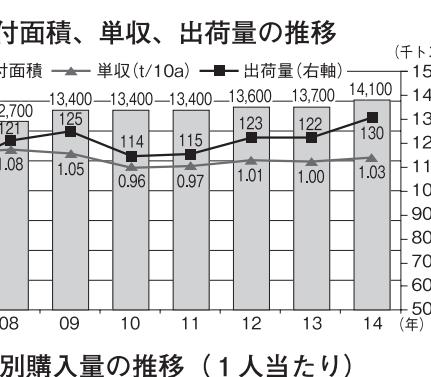
農家所有トラクタで施工可能 水田転換畠などにも対応

ブロックコリー出荷量増加傾向 年間購入量07年以降過去最高

農畜産業振興機構はこのほど、「ブロックコリーの需給動向等について」を公表した。それによると、14年の作付面積、出荷量、単収すべてで増加傾向にあり、1人当たり年間購入量は07年以降過去最高を記録した。

14年のブロックコリーの作付面積は1万4100ha、出荷量は13万400t、単収は10a当たり1.03tとなった。作付面積、出荷量、単収を07年と14年で比較すると、作付面積が118%、出荷量が119%の増加率となっている一方、単収は微減しており、出荷量の増加は作付面積の増加が大きく影響している。

都道府県別にみると、北海道が2万1700tでもっとも多く、次いで埼玉が1万3800t、愛知が1万3300tとなっており、この3県で全国の約4割を占めている。香川では07年と比べると、作付面積が173%、出荷量が159%、長崎では作付面積が165%、出荷量が160%と著しい増加を示している。東京も出荷量が1750tと15位の茨城に続いている。



り、都市農業の重要な作物となっていることがうかがえる。

総務省の「家計調査報告」によると、1人当たりのブロックコリーの年間購入量(冷凍含む)は、健康志向から近年は増加傾向で推移し、14年は1371gとなっており、07年以降過去最高の量を記録した。

年代別にみると、20歳代で購入量がもっとも少なく、60歳代でもっと多くなっており、全体として年齢が高くなるほど購入量が多くなる傾向にあった。

モモ収穫・出荷量ともに1割減 スモモ同様に減少傾向

農水省が公表した「15年産モモ、スモモの結果樹面積、収穫量及び出荷量」によると、モモの収穫量・出荷量ともに前年産に比べ1割減少した。スモモも減少が続いている。

モモの結果樹面積は9690haで、前年産に比べ20ha(1%)減少。収穫量は12万1900t、出荷量は11万1400tで、前年産に比べそれぞれ1万5100t(11%)、1万4000t(11%)減少した。10a当たり収量は1260kgで、開花期の天候不順の影響により着果数が減少したこと、生育期の高温・多雨の影響により裂果及び落果等により、前年産に比べ130kg(9%)下回った。

都道府県別の収穫量割合は、山梨が32%、福島が22%、長野が13%となっており、この3県で全国の約7割を占めている。

スモモの結果樹面積は2880haで、前年産に比べ20ha(1%)減少。収穫量は2万1300t、出荷量は1万8600tで、前年産に比べそれぞれ1000t(4%)、1000t(5%)減少した。10a当たり収量は740kgで、前年産に比べ29kg(4%)下回った。

都道府県別の収穫量割合は、山梨が32%、長野が15%、和歌山が11%となっており、この3県で全国の約6割を占めている。

春植えればいしょ収穫量減少続く 主産地の北海道でも同様の動き

農水省がこのほど公表した「15年産春植えればいしょの作付面積、収穫量及び出荷量」によると、全国の作付面積、収穫量、出荷量すべてが前年産に比べ減少した。

全国の作付面積は7万4600haで、前年産に比べ90ha(1%)減少。10a当たり収量は3160kgで、前年産に比べ30kg(1%)減少した。収穫量は235万4000t、出荷量は196万6000tで、前年産に比べそれぞれ5万5000t(2%)、5

万3000t(3%)減少した。

全国の収穫量の約8割を占めている北海道の作付面積は5万1000haで、前年産に比べ500ha(1%)減少。10a当たり収量は3720kgで、前年産並みとなった。収穫量は189万7000t、出荷量は169万tで、前年産に比べそれぞれ1万9000t(1%)、2万5000t(1%)減少した。

北海道以外で収穫量が多いのは、長崎(全国の3%)、鹿児島など(同)。

新潟県農業総合研究所畜産研究センター 泌乳前期 稲WCS主体TMR給与 玄米最大30%混合でコスト削減

新潟県農業総合研究所畜産研究センターは、これまで行った試験で、稲WCSを粗飼料の主体とするTMRを用いて、泌乳前期の乳牛には25%まで給与可能のこと、泌乳中後期の乳牛には35%まで給与が可能であることを確認している。

同センターは、泌乳前期のさらなる給与可能な飼料用米の混合割合を明らかにするため、再度試験を実施した。

試験は、乳用初産牛6頭を供試し、飼料用米を破碎機でローラーの隙間を1mm程度に調整し、破碎処理した玄米を乾物で25%混合の発酵TMRを給与する「25%区」、30%混合の「30%区」の2区(各3頭)を設けた。主な粗飼料として両区とも稲WCSを乾物で25%混合し、ほかの飼料の混合割合は、

ほぼ同様とした(表1)。

分娩予定の2週前より馴致を開始し、分娩後10週目までの飼養試験を実施した。

試験の結果、乾物摂取量、乳量は各週次および10週間の平均値は2区に有意差はなかった(表2、図)。乳成分率は、乳脂率、乳たん白質率、SNF率(無脂固形分率)とともに有意差はなく、飼料用米の混合割合を高めても乳生産に影響はなかった。

第一胃内の総VFA(揮発性脂肪酸)濃度は、「30%区」で高い傾向だったが、酢酸プロピオン酸比に差はなかった。血しょう中の諸成分濃度は、2区に差はなかった。

以上の結果から、破碎済み玄米を乾物で30%混合した稲WCS主体の発酵

表1 飼料の乾物混合割合および飼料成分

飼料・項目名	飼料用米混合割合	25%	30%
乾物混合割合(%)			
稲WCS	25	25	
イネ科牧草	10	10	
飼料用玄米(破碎済み)	25	30	
ビール粕	10	9	
豆腐粕	10	9	
ビートパルプ	6	3	
大豆粕	10	11	
その他 ^①	4	3	
成分含量(乾物中%) ^②			
粗たん白質(CP)	16.7	16.7	
中性デタージェント繊維(aNDFom)	33.6	30.4	
粗脂肪(EE)	4.7	4.1	
非纖維性炭水化物(NFC)	34.3	39.1	
可消化養分総量(TDN)	73.9	75.2	

^① フスマ、糖蜜、ビタミン、ミネラルを含む

^② 設計値

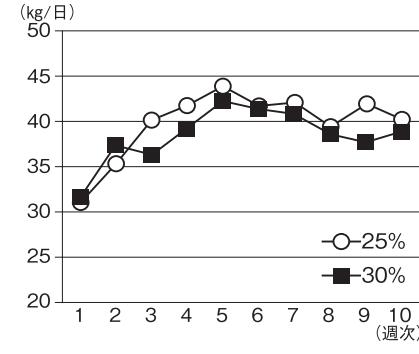
TMRは、泌乳前期の乳生産に大きな影響なく利用できると考えられた。

利用上の留意点として、①玄米の破碎粒度が細かくなると、第一胃内が酸性化する場合もあるため、飼料全体のデンプンをはじめとする非纖維性炭水化物と繊維等の諸成分含量のバランスをとり、乳牛の反応を見極めながら給与する②玄米の混合割合は、牛の状態を注意深く観察しながら、しだいに増やす。

表2 分娩後10週間の乳生産

飼料・項目名	飼料用米混合割合	25%	30%
頭数		3	3
乾物摂取量(kg/日)		22.0	21.0
乳量(kg/日)		39.8	38.3
乳成分率			
乳脂率(%)		4.59	4.45
乳たん白質率(%)		2.96	3.01
無脂固形分率(%)		8.44	8.60

図 分娩後の乳量の推移



同センターによると、玄米を8kg(混合割合30%相当)給与することにより、配合飼料全量給与に比べ、搾乳牛1頭当たりの年間飼料コスト(配合飼料65円/kg、飼料用玄米30円/kgで試算)は、約10万円の低減が期待できるとしている。

長野県畜産試験場

肥育後期豚 規格外小麦2割給与 肉質影響なく増体量維持

養豚は飼料原料の多くを輸入穀物に依存しているため、飼料用米やエコフィードなどの国産原料を活用したコスト低減が重要である。

長野県畜産試験場は、小麦生産で排出される規格外小麦の飼料としての利用性と肉質向上効果を調査した。

試験は、LWD雌14頭を供試豚として、市販配合飼料を給与する「対照区」(5頭)、配合飼料の20%を粉碎した規格外小麦で代替する「試験区」(5頭)、配合飼料の20%を粉碎した飼料用玄米で代替する「飼料用米区」(4頭)の3区を設けて試験を実施した(表1)。各区とも群飼で飼料は不断給餌とした。

体重約70kgから試験を開始し、115kgを越えた個体からと畜を実施した。規格外小麦は、麦収穫後2.2mmのふるいを通過したものを飼料用粉碎機で外皮が割れる程度に粉碎したものとした。

調査項目は、発育および飼料要求率、

平均枝肉重量、肉質成績、背脂肪内層の脂肪酸組成と脂肪融点とした。

試験の結果、日増体量は、各区とも1000g以上だった。飼料要求率は、「試験区」がほかの2区に比べて、良好だった(表2)。

平均枝肉重量は、「対照区」および「試験区」は77.7kgで、「飼料用米区」は77.5kgだった。

背脂肪の厚さは、平均値では各区とも枝肉取引規格の「上」の範囲内だったが、「試験区」と「飼料用米区」の各1頭は2.5cmとやや厚く「中」となった。歩留りおよびロース断面積は各区に差がなかった。

肉色は、「飼料用米区」の明度が、ほかの2区よりやや高かった。脂肪色は、「試験区」が、ほかの2区に比べ明度が高く、赤色度が低かった。筋肉内脂肪割合は、「飼料用米区」が、ほかの2区に比べやや多かった。

背脂肪内層の脂肪酸組成では、リノール酸は、「試験区」と「飼料用米区」が「対照区」よりも少なく、オレイン酸は「飼料用米区」がほかの2区より多かった。脂肪融点は、「試験区」が43.1°Cでもっとも高く、ほかの2区も融点は高かつた。

表1 給与飼料の成分

	水分	粗たん白	粗脂肪	NFE	粗纖維	粗灰分	TDN推定値
市販飼料	12.5	13.6	3.5	62.3	3.8	4.3	76.5以上 ^{*1}
分析値	13.4	9.8	1.6	70.1	2.5	2.6	77.1 ^{*2}
飼料用米	14.6	7.4	2.3	71.7	1.1	2.8	80.3 ^{*2}
小麥	11.5	12.1	1.8	70.5	2.4	1.7	79.8
規格外小麦	14.8	7.5	2.7	72.9	0.7	1.4	82.0
对照区	12.5	13.6	3.5	62.3	3.8	4.3	76.5以上
試験区	12.7	12.8	3.1	63.8	3.5	4.0	76.6以上
飼料用米区	12.9	12.3	3.3	64.2	3.3	4.0	77.3以上

*1: 飼料表示票による

*2: 飼料成分表の小麦および玄米の消化率から求めた推定値
可消化たん白+2.25×可消化粗脂肪+可消化NFE+可消化粗纖維

た。

表2 発育、飼料要求率および枝肉成績

試験結果から、配合飼料の20%を粉碎した規格外小麦で代替することにより、発育は良好で飼料要求率が改善し、脂肪融点が高くなった。	試験区	日増体量(g)	飼料要求率	試算による飼料必要量(kg) ^{*1}	歩留り(%)	背脂肪の厚さ(cm)	ロース断面積(cm ²)
試験区	1180	3.03	136	68.3	2.2	20.8	
対照区	1104	3.27	147	67.8	2.1	21.0	
飼料用米区	1071	3.15	142	68.0	2.3	20.5	

*1: 体重70kgから115kgまでの45kgの増体量を要求率から試算
背脂肪の厚さにおける豚枝肉取引規格「上」の範囲: 1.3~2.4cm
ロース断面積: 第4~5胸椎間

前期・後期のエサ分けが重要

乾乳期の対応および注意点

乳牛に発生する疾病の多くは、分娩前後に発生することが多く、乾乳期の管理方法を確立することで次期乳期の生産性アップにも繋がるため重要である。乾乳期の対応および注意点について、北海道根室農業改良普及センターの「乳牛の飼養管理」から紹介する。

乾乳時の注意点

①乳房炎治癒の確認後、乾乳軟膏を注入する②搾乳刺激から遠ざける(ミルカーパーの音などで漏乳のリスクが高まる)③乳房の張りは3日目頃にピークになり、4~5日後に、乳房表面にしづわが増え、乳房がしづわんでくる。異常があれば治療し、再度、乾乳作業を行う④乾乳直後は乳房炎になりやすい時期のため、清潔な場所で飼養する⑤可能であれば、乾乳後2週間、1日2回のディッピング

を行う。

乾物摂取量を低下させない管理

①質の良い粗飼料の不断給餌を行う②過密にしない③育成牛群の中に乾乳牛を入れない④衛生的で乾燥した環境とする。

栄養充足とカルシウムコントロール
乾乳後期(分娩3週間前)では、胎児の急成長による第一胃の圧迫から採食量が減少するものの、胎児の成長および泌乳に向けた栄養要求量が高まる時期のため、充分な乾物摂取量とともに、栄養を充足させることが欠かせない。

また、泌乳開始時の低カルシウム血症を防ぐためには、カルシウム給与を制限する。
管理上の注意点として、乾乳前期牛と後期牛とは同居させず、エサを明確に分けることが重要である。

農場拝見

福岡県宮若市 小金原開拓
森下團藏・哲次さん

福岡県北部の宮若市小金原開拓地は、旧産炭地である筑豊地区に位置し、周囲を標高300~600mの山に囲まれた盆地の中にあります。

同開拓地には、1948(昭和23)年に16戸が入植した。離農が進み、現在、森下團藏・哲次さん兄弟が唯一、農業経営を営む。

初代の團藏さん(故人)が、芋の栽培などに取り組み、55年に乳牛の導入を始めた。同年には、二代目の健二さん(故人)が炭鉱に勤務した後、30歳の時に就農した。

三代目の團藏さんは、82年高校卒業後に全開連畜産技術センターで研修を受け就農。当時の飼養頭数は18頭だったが、90年に牛舎を増設し規模拡大を図り、現在では搾乳牛42頭、育成牛28頭。

耕種農家連携で自給飼料生産努める



1頭当たり平均乳量1万700kg、分娩間隔420日、飼料用稻WCS、スーダン・イタリアンなど草地面積は借地も含み合計約110ha。團藏さんは、特に乾乳時のボディコンディションが重要という。

地域の耕種農家とも連携しながら、自給飼料生産に努め、飼料用稻WCSなどを水田転作作物として栽培・収穫・調製・利用し、生産コスト削減に力を入れるとともに、ほかの農家にも販売している。

弟の哲次さんは、会社に勤めた後、88年に就農。同年から乳用種去勢牛約100頭の肥育を始め、健二さんが酪農、團藏・哲次さんが哺育・肥育部門を経営。

93年頃から、交雑種肥育を始め、しだいに飼養割合が増え、2002年には、乳用種・交雑種が半々

になった。現在、交雑種雌牛を中心に、哺育期の呼吸器病対策などに注意しながら約360頭を肥育。

給与飼料として、配合飼料・地元産稻わら以外に、飼料用稻WCS・SGS(ソフトグレインサイレージ)を給与。また、エコフィードとして、オカラなども給与している。

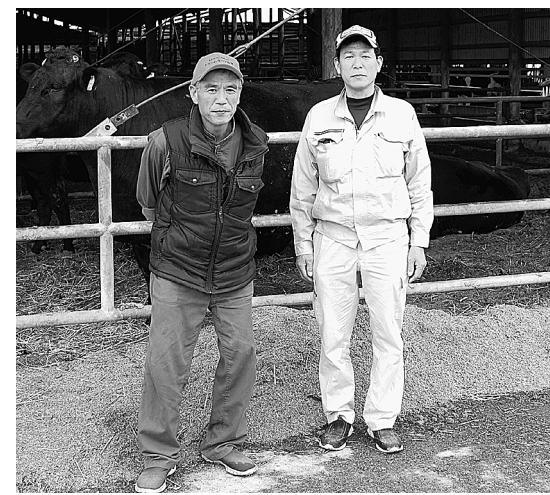
05年には、(一社)日本草地畜産種子協会主催の「第9回全国草地畜産コンクール」で、当時、同県初の「農水省生産局長賞」を受賞した。

08年から、團藏さんが酪農部門、哲次さんが哺育・肥育部門を担当するようになり、現在に至る。

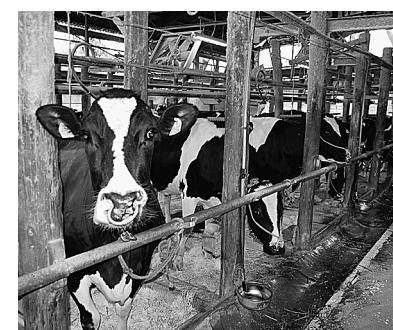
14年6月には、酪農・肥育部門の個人経営は残しつつ、今後の規模拡大や設備投資のほか、WCS等の販売などを目的に株式会社を設立。

團藏さんは、普段から仕事に取り組む中で、自分一人で考えるのではなく、畜産経営を兄弟揃って進められることが良いという。そして、兄弟ともに、子供たちに家業を継いでもらいたいという。

今後は、6次産業化を目指し、ジ



左から團藏・哲次さん
右=肥育舎
下=搾乳舎



エラートなどの乳製品販売のほか、増頭や枝肉重量増加を図りながら牛肉販売も始めたたいといふ。

千葉県畜産総合研究センター

交雑去勢牛で配合2割糀SGSで置換 飼料費減で収益性約3割向上

千葉県畜産総合研究センターは、以前、糀ソフトグレインサイレージ(以下、糀SGS)に着目し、黒毛和種去勢牛の配合飼料の40%を糀SGSに置き換える給与試験を実施し、配合飼料と同等の成績を得られる可能性を報告した。今回、同センターは、千葉県内の肥育牛の過半数を占める交雑種去勢牛への給与試験を行った。

試験は、交雑種去勢牛12頭(種雄牛:福白清)を使い、糀SGSを市販配合飼料(TDN72.0%以上、CP12.5%以上)中に原物重量比で20%を置き換える「20%SGS区」、40%を置き換える「40%SGS区」、配合飼料のみを給与する「対照区」の3区(各4頭)を設けて行った。粗飼料は切断稻わらを用いたが、糀SGSに由来するモミガラも粗飼料と考え、粗濃比を調整した。なお、糀SGSで置き換えたことによる粗たん白質含量の低下を補正せずに給与した。

また、肥育中期にはビタミンA制御を行い、肥育後期には血中ビタミンA水準の維持のため、ADE製剤を4回、

それぞれ50万IUを経口投与した。

調査項目は、飼料摂取量、体重・体尺測定、血液性状、第一胃内容液性状、枝肉格付成績、肉質分析、と畜時の内臓所見とした。

試験の結果、飼料摂取量では、前期は各区でほぼ同等だったが、中期のうち14.0~17.8ヵ月齢では、「40%SGS区」が「対照区」と「20%SGS区」に比べ、有意に高くなかった(表1)。17.9~19.9ヵ月齢では、有意差はなく、後期は各区ともほぼ同等だった。また、TDN摂取量も飼料摂取量と同様に推移した。

発育成績では、試験終了時体重はほぼ同等だった。日増体量は、全期間を通して、各区に有意差はなかった。

血液性状では、各区に有意差は認められなかったが、血中尿素窒素(BUN)は、肥育中期以降に「SGS給与区」が対照区と比べ低い傾向だった。血中レチノール量(ビタミンA)は、各区で有意差はなかった。

第一胃内容液性状では、pHは、全期間を通して各区に有意差はなかった

が、「40%SGS区」

でpH6.2を下回る個体がみられたことから、糀SGS由来デンプンの分解性が高いことが示唆された。プロピオン酸は、全期間を通して、各区に有意差はなかったが、肥育後

期は、「40%SGS区」

で高くなる傾向がみられた。

枝肉格付成績では、枝肉重量および胸最長筋(ロース芯)面積は、「20%SGS区」が「対照区」と「40%SGS区」に比べてやや大きくなったり、「20%SGS区」で面積の大きな個体が1頭いたためである(表2)。また、脂肪交雑は、「40%SGS区」でやや低かったが、有意差はみられなかった。枝肉単価と枝肉販売金額は、各区ともほぼ同等であった。

肉色は、「対照区」が「20%SGS区」と比較し、有意に赤味(赤色度)が強いことが示された。そのほか、ドリップロス、粗たん白質含量、脂肪の

表1 飼料摂取量

月齢	対照区	乾物摂取量(kg/日)			TDN摂取量(kg/日)
		20%SGS区	40%SGS区	P値	
前期 11.0~13.9	9.3	8.8	8.9	0.67	7.4
中期 14.0~17.8	9.5 ^a	10.0 ^a	10.6 ^b	0.004	7.5 ^a
〃 17.9~19.9	8.9	9.2	9.9	0.36	7.1
後期 20.0~25.9	9.1	9.4	9.4	0.74	7.3

*※異符号間に有意差あり(P<0.01)

表2 枝肉成績

格付	対照区	20%SGS区		P値
		B3:2頭 B4:2頭	B3:3頭 B4:1頭	
枝肉重量	※1 kg	247.0	251.8	0.79
ロース芯面積	cm ²	50.0	56.0	0.21
バラ厚	cm	7.7	7.7	0.83
皮下脂肪厚	cm	2.8	2.6	0.72
歩留基準値		70.4	71.2	0.27
BMS No.		4.5	4.5	0.29
BCS No.		3.0	3.0	1.00
枝肉単価	円	1,442	1,463	0.51
販売価格	円	712,348	736,766	0.56

*※1 枝肉重量は、半丸の重量

*※2 販売価格は半丸価格の2倍

融点に有意差はみられなかった。

各区の肝疾患は1頭ずつで、糀SGS給与による消化器系への悪影響はないことが示された。

糀SGS30円/kg、配合飼料55円/kgとして試算すると、飼料費は、「対照区」に比べ、SGS給与2区で低減がみられた。飼料費と枝肉販売金額の差は、試験区間で有意差はなかったものの、収益性で「20%SGS区」が「対照区」に比べ約3割向上した。

糀米は粗タンパク含量やビタミンAの原料となるβカロテン含量、カルシウム含量が低いため、これらの不足を理解し給与することが必要である。

畜産物価見通し

牛枝肉

焼き材・和牛代
替需要で乳・交
雑種もちあいか

2月は、不需要期だったことから、鍋物需要などがあまり振るわず、全品種で相場は前月に比べ下げた。

今後は、長期にわたる高値の影響により、継続して荷動きは鈍いと考えられる。だが、歓送迎会や花見需要により、しだいに焼き材の需要増が見込まれることなどから、乳用種および交雑種を中心に、相場はもちあいと予想される。

【乳去勢】2月の大阪市場乳去勢牛税込み平均枝肉単価は、B2が1096円(前年同月比106%)となった。前月に比べ、86円下げた(B3は上場なし)。

農畜産業振興機構は、3月の乳用種牛(雌含む)の全国出荷頭数を3万2500頭(同98%)と見込んでいる。輸入量は、3万4700t(同99%)、うち冷蔵品1万6500t(同96%)、冷凍品1万8200t(同101%)と予測している。

依然として、高値は続いているが、これからは、モモやバラなどの焼き材需要がしだいに活発になると見込まれることなどから、相場はもちあいと予想される。

【F₁去勢】2月の東京市場F₁去勢牛税込み平均枝肉単価は、B3が1597円(前年同月比105%)、B2は1397円(同97%)となった。前月に比べ、それぞれ65円、87円下げた。

同機構は、3月の全国出荷頭数を1万9500頭(同101%)と予測している。

出荷頭数が例年並みと予測されているものの、依然として高値が続く和牛に比べ、値ごろ感から代替需要が見込まれることなどから、2、3等級ともに、相場はもちあいと予想される。

【和去勢】2月の東京市場和去勢牛税込み平均枝肉単価は、A4が2622円(前年同月比117%)、A3は2474円(同117%)となった。前月に比べ、それぞれ6円、14円下げた。

同機構は、3月の全国出荷頭数を3万7900頭(同99%)と予測。また、全品種合計の出荷頭数は、前月に比べて約3000頭増の9万1400頭(同99%)と予測している。

和牛は、出荷頭数が例年並みと予測されていることに加え、気温上昇にともなって、鍋物需要の減少などが見込まれることから、3、4等級ともに、相場は弱もちあいと予想される。

向こう1ヵ月の大阪市場の乳去勢B2の税込み平均枝肉単価は、1050~1100円、東京市場の税込み平均枝肉単価は、F₁去勢B3が1550~1650円、B2は1350~1450円、和去勢A4が2500~2600円、A3は2350~2450円での展開か。

2月の子牛取引状況

(単位:頭、kg)

ブロック名	品種	頭数		重量		1頭当たり金額		単価/kg	
		当月	前月	当月	前月	当月	前月	当月	前月
北海道	乳去	13	646	239	291	131,843	251,031	552	863
	F ₁ 去	1,249	1,111	314	314	438,657	461,523	1,397	1,470
	和去	1,542	1,419	307	308	820,102	791,743	2,671	2,571
東北	乳去	-	2	-	160	-	104,220	-	651
	F ₁ 去	-	14	-	272	-	334,877	-	1,232
	和去	1,488	2,192	305	301	786,632	761,624	2,575	2,530
関東	乳去	25	17	233	247	156,470	157,362	672	637
	F ₁ 去	161	195	301	302	416,792	427,635	1,383	1,414
	和去	897	721	272	265	759,941	725,242	2,789	2,737
北陸	乳去	-	-	-	-	-	-	-	-
	F ₁ 去	-	-	-	-	-	-	-	-
	和去	-	-	-	-	-	-	-	-
東海	乳去	21	30	299	302	256,937	251,964	859	834
	F ₁ 去	71	77	298	297	433,551	439,138	1,454	1,479
	和去	258	449	256	260	816,073	784,847	3,182	3,014
近畿	乳去	-	-	-	-	-	-	-	-
	F ₁ 去	-	-	-	-	-	-	-	-
	和去	271	499	259	251	943,656	882,234	3,643	3,508
中四国	乳去	83	96	264	260	215,440	215,404	815	829
	F ₁ 去	229	219	287	292	426,760	438,850	1,489	1,505
	和去	250	821	280	231	745,135	742,278	2,663	3,207
九州・沖縄	乳去	33	20	278	279	221,367	218,538	797	784
	F ₁ 去	500	372	296	289	438,479	436,325	1,481	1,511
	和去	6,030	10,438	284	280	799,918	784,312	2,820	2,801
全国	乳去	175	811	265	286	206,903	243,721	781	852
	F ₁ 去	2,210	1,988	306	305	435,627	449,227	1,424	1,473
	和去	10,736	16,539	288	283	800,376	780,250	2,779	2,757

注) (独)農畜産業振興機構の公表データを基に本紙集計、当月は暫定値。
価格は消費税込み、重量・金額・単価は加重平均。ーは上場がなかったことを示す。
関東ブロックは山梨県、長野県、静岡県を含む。

和牛2・3等級→交雑上物にシフト傾向 国産牛肉の肉質向上が必要

2月は、閑散期ということもあり、相場全体が軟調に推移した。今月は、前年と比較すると、月当たり交雑種が約100頭増加した一方、和牛・乳牛が減少している。これからは、イベントが多くなることから、しだいに牛肉需要が高くなり、相場の底上げが予想される。

市場関係者の話によると、近隣の南大阪食肉市場の閉鎖により、購買者は大阪市食肉市場へ流入してきているが、競り落とす購買者はほぼ決まっている。決算時期が近づいていためか、あるいは他市場で買い揃えているためか、大手購買者の買い

控えが目立ち、3月に入ても想定よりも相場が上がらない。

また、前月と同様に、一部の和牛購買者は和牛の2・3等級の代替として、交雑種の3等級の上物および4等級にシフトする傾向にあり、依然として交雑種の上物の単価は高い。だが、2等級とくにスモールで皮下脂肪や筋間脂肪が厚い枝肉は、単価の伸びが著しく弱くなり、購買者の目がより一層厳しくなっている。

最近、神戸市内にあるステーキ店では、米国産牛肉を使用した低価格のローストビーフ丼が人気を博している。今後、外国産との差別化を図るため、国産牛肉のより一層の肉質向上が必要である。

(全開連西日本支所神戸事業所 北田学史)



豚枝肉

焼き材需要と輸入冷蔵品減で相場はもちあいか

2月の東京市場税込み平均枝肉単価は、上物が521円(前年同月比83%)、中物は488円(同82%)となった。相場安だった前月に比べそれぞれ55円、63円上げた。上旬は、特売需要や鍋物需要で上物価格500円台後半と堅調な相場だったが、中旬以降は需要が鈍り、下旬は同400円台前半と変動が大きかった。

農水省食肉鶏卵課は、3月の全国出荷頭数を141万3000頭(前年同月比103%)、4月は137万3000頭(同100%)と予測している。

素牛スモール

恒常的な素牛不足により相場の高値基調続くか

【乳素牛】2月の素牛価格(左表)の全国1頭当たり税込み平均価格は、乳去勢が20万6903円(前年同月比134%)、F₁去勢が43万5627円(同116%)となった。前月に比べ乳去勢は、3万6818円、F₁去勢は1万3600円下げた。

前月より価格が低下したものの、依然として素牛不足が続き、高値となった。今後も、素牛不足は解消せず、需給のひっ迫が継続すると見込まれ、両品種とも相場は強含みの展開が予測される。

【スモール】2月の北海道主要市場1頭当たり税込み平均価格は、乳雄が11万7742円(前年同月比240%)、F₁雄が26万7127円(同160%)となった。前月に比べ乳雄は3662円、F₁雄は7981円上げた。取引頭数は、乳雄、F₁雄とも

に前月に比べ減少しており、それぞれ前月比96%、99%となった。前年同月比では108%、109%。両品種とも前月に比べ取引頭数が減少し、相場は高値基調が続いた。

スモールの需要が強い中、出荷頭数が引き続き減少することが見込まれ、需給がひっ迫し、相場は強含みで推移するか。

【和子牛】2月の和去勢価格(左表)の全国1頭当たり税込み平均価格は、80万376円(前年同月比126%)で、前月に比べ2万126円上げ、6ヵ月連続で過去最高を更新した。

恒常的な素牛不足と堅調な枝肉相場を背景に購買者の買いが活発となり、価格を押し上げた。

今月から来月に導入する素牛は出荷時期が翌年の需要期にあたるため、活発な手当が見込まれ、高値相場が続くか。